

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年十二月度 入選句（投稿総数二千四百二十二句・一般投句数六百四十六句）

特選 選者 大橋 庄一郎

原 発 に 追 わ れ 仮 舎 に 冬 ざ る る 大垣市 浅 野 亨

平成二十三年三月十一日東日本大震災に罹災なされ、その上東電福島第一原発事故の被害も受けられ、帰還の有無も未定のまゝ、福島島の寒い冬を迎えられ、仮設住宅の生活は狭く「不安・焦り・いら立ち」の方も有ると聞いて居ります。人生の内の最悪の冬ざるるかと思ひます。が、俳句作りもなされ、きつと来るよき日をお待ち頂きたいと思ひます。

亡 き 父 母 の 額 より 始 む 煤 払 い 福井県福井市 三ツ山 ひろし

大抵の家庭では、座敷などに亡き父母の寫眞を掲げてある。この句の作者は別として、父母存命中には親孝行が充分出来なかつた方も有り、その埋め合せもあり、又先祖を教ひ尊ぶ理念から、父母の額より煤払ひ掃除をされるのはよき習慣であり、是非お続け願ひたいものです。煤払いが生きてます。

わ れ 八 十 路 五 輪 み た い と 初 詣 大垣市 浅 野 亨

九月七日、二〇二〇年のオリンピックが東京に決まりました。この句の方は八十歳代の方で、七年後に五輪を観たいと初詣でお願いされるのですが、出来ますれば十四年後のリニア新幹線にも乗られる希望を持たれ、俳句作りもなされ、健康長寿されます様にお祈り申します。

秀逸

た ら ひ 舟 舟 子 の 法 被 柿 の 色	大垣市	上 野 幸子
雪 吊 の 師 弟 の 呼 応 ゆ る ぎ な し	愛知県尾張旭市	古 賀 勇理央
生 涯 を 輪 中 に 暮 ら し 根 深 汁	大垣市	村 田 通夫
身 は 穢 土 や 心 は 浄 土 報 恩 講	不破郡垂井町	高 木 しげ乃
冬 ざ る る 如 来 の 耳 の ふ く よ か さ	大垣市	片 野 元子
欲 得 も う す れ て 卒 寿 ち や ん ち や こ	大垣市	川 口 千代子
泣 き ご と も 憂 ひ も 言 は ず 枇 杷 の 花	養老郡養老町	田 中 紫香
子 の 床 に そ つ と 聖 夜 の プ レ ゼ ン ト	岐阜市	堀 江 美州
苦 舟 に 昨 夜 の 雨 あ と 蛤 塚 忌	大垣市	田 辺 のり子
大 禍 な く 卒 寿 を 越 へ て 雑 煮 祝 ぐ	大垣市	田 村 久夫

入選

地下道の中に枯葉の吹き溜り	大垣市	上野 幸子
冗舌も寡黙もありて年忘	愛知県尾張旭市	古賀 勇理央
息白し翁媼の太極拳	大垣市	伊藤 鈴子
ねこじゃらし掲げかけっこ里の児ら	安八郡神戸町	田宮 八重子
風が舞う落ち葉がおどる並木道	揖斐郡揖斐川町	橋本 美春
悪役のひとときわ恐し菊人形	大垣市	横井 正明
蹴散らして銀杏落葉や子の遊ぶ	大垣市	岡田 あや子
しばらくは空に遊びて枯葉散る	大垣市	下村 常子
冬ざるる母の手あれに胸痛む	大垣市	三摩 法恵
寄せ鍋や湯気の囲りに三世代	大垣市	新町 恵子

入選

柿赤し里は夕陽に燃えてをり	大垣市	高木 治子
子と入る湯ぶねの中にゆずふたつ	大垣市	祢宜 賞子
日めくりの残りに追われ賀状書く	大垣市	河合 秋信
朝寒や学童子等のいそぎ足	大垣市	樋口 絹子
夫婦旅窓に雪富士胸おどる	大垣市	清水 登喜子
幼子が柚子で毬つく湯舟かな	大垣市	小倉 久実
樽の蓋割られ戴く今年酒	大垣市	小林 啓二
枅縁に塩ひとつまみ新酒酌む	兵庫県神戸市	岸下 庄二
雪搔は孫を呼びたい口実か	養老郡養老町	鈴木 颯太
冬薔薇孤独の中に咲きにけり	大垣市	小林 真帆

選者吟

十羽ゐて十の水尾引く鴨の群

大橋 庄一郎